

# クスッと笑えて腑に落ちる 『著作権法ガイドンス』 著者にきく

知的財産権のなかでも我々の生活にとって非常に身近な存在である著作権だが、産業財産権とは異なり、無方式主義であるため、普段から意識することは少ないのではないだろうか？ そして、著作権法は条文自体が難解で理解しにくいといわれるのもまた事実……。

こうした現状に鑑み、横浜国立大学で教鞭<sup>きょうべん</sup>を執る傍ら『著作権法ガイドンス』を執筆した白鳥綱重氏に話を伺った。

## 執筆に至った理由

——まず、本書執筆のきっかけや経緯について伺います。

白鳥綱重氏（以下、白鳥）：はい。この本は何を隠そう……、いや、別に隠すほどのことでもありませんが(笑)、私が大学で著作権法を教える立場になったとき、「限られた授業時間内で語り切れないことを、自分に代わって、分かりやすく語ってくれる本はないかなあ」と感じたことがきっかけです。

実は、横浜国大に赴任する前は文化庁著作権課に勤務していました。その際に、文化庁主催の「著作権セミナー」という、一般向け講座の講師を務める機会を得ました。

すると、私の講義を受講した方から、「分かりやすかった！」という、ありがたい感想を頂いたのです。

大学に赴任してから、そのことを励みとして、分かりやすい授業をしようと心掛けてきました。

### 白鳥 綱重（しろとり つなしげ）

1996年 早稲田大学法学部卒業  
1998年 早稲田大学大学院法学研究科修士課程修了  
1998年 文部省（現文部科学省）入省  
2002年 ワシントン大学ロースクール修士課程（IP LL.M.）修了

以来、文化庁著作権課課長補佐（2005年7月～2007年1月）、ユネスコ日本政府代表部書記官（2007年1月～2010年3月）、三重県教育委員会総括室長／次長（2011年4月～2014年3月）、文化庁著作権課著作物流通推進室長（2017年7月～2019年3月）等を経て、2019年4月より横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授（現在に至る）

——そのかいもあって、令和2年度の「横浜国立大学ベストティーチャー賞」を受賞されましたよね。

白鳥：そうなんです。よくご存じですね(笑)。

——横浜国大のウェブサイトで見ました。

白鳥：同賞の受賞は、分かりやすい授業を……という心掛けが功を奏した面もあるのではないかと思います。そもそも、横浜国大には法学部がありません。ですから大学の授業では、法学部以外の学生が著作権法を学ぶ、という視点を常に意識してきました。

そこで、そのような学生や社会人の方であっても、スッと入ることができ、そのうえでポイントをガッツリ理解できる著作権法入門書はないものか？ 「いや、ないなら作っちゃえ！」ということで書き上げたのが、本書です。

執筆の際には、何よりも自分自身が楽しむということを大切にしました。教える側がオモシロイと感じていなければ、教わるほうも、楽しく感じるはずがないですからね。

——なるほど。確かにそうですね。逆に、執筆にあたって一番苦労されたのは、どのような点でしょうか？

白鳥：う～ん……。実は執筆中は、「こんなことを言ったらウケるんじゃないかな？」みたいなことを考えながら書いていました。自分の文章を読んで吹き出したりして(笑)。ですから苦労というよりも、楽しみながら取り組みました。



強いて「苦勞」した点を挙げるとすれば、校正作業ですね。原稿の段階では、もっとページ数が多かったのですが、出版チームの皆さまからの叱咤<sup>しった</sup>激励を受けながら大幅にそぎ落としたり、推敲<sup>すいこう</sup>を重ねたりしました。その作業を短期間に行う必要があったので、それが大変でした。

ただ、おかげさまで、その分読みやすく、よいものが出来上がったのではないかと、ひそかに自負しております。

## 本書の特徴

——最初に本書の原稿を拝読した時、「クスッ」と笑える部分が随所に盛り込まれているので、長編であるにもかかわらず、読みやすくて分かりやすいなと感じました。ということで、本書の特徴やコンセプトなどについてご紹介ください。

白鳥：ありがとうございます。本書のコンセプトは、「著作権法を、気軽に、楽しく、丸かじり」で、その軸に据えているのが、「著作権の花」です。

「著作権の花」というのは、これまで誰も聞いたことがないはず。それもそのはず、私の空想による想像上の花ですから(笑)。ただし、自分で言うのもなんですが、著作権の特徴が端的に表されており、よくできた花です。

本書はこの「著作権の花」のイラストを手掛かりとして、ストーリー性も持たせながら、著作権法の学習を進められるように組み立てました。

例えて言うならば、「著作権の花と行く！ 著作権法学習の旅」といった感じです。

——旅行会社のキャッチコピーみたいですね(笑)。

白鳥：内容についてですが、大学の授業をイメージし、15章で構成しました。全体の導入となる第1章では、「著作権の花」を披露します。また、各章の記述は冒頭で「総合案内」を行った後に、それぞれのポイントを「ツボ」として示しています。「著作権法は全く初めて！」という方は、第1章をご覧ください。後、「総合案内」と「ツボ」を中心に目を通すと、全体を効率的に把握できます。

また、各記述は裁判例のほか、主に本文と「ひとくちメモ」、そして「特別おまけメモ！」から構成されています。

「著作権法は全く初めてじゃないけど、あまりよく分かっていないので、ちょっと勉強してみようかな？」という方は、「ツボ」に加えて本文を中心に読み進め、さらに、ある程度学習が進んでいる方は、「ひとくちメモ」もご覧いただくとよいと思います。そして、さらにディープな味わいを求める方のため、「特別おまけメモ！」も、ご用意しています。

このように、本書は階層的・重層的な内容構成とすることで、各学習者がそれぞれの関心と学習深度に応じて、自由に活用できるものとなっています。もちろん、最新の令和3年改正も、盛り込んでいます。

——それから、ぜひ読者に紹介したいエピソードが、カバーデザイン！ この原案は息子さんと共作されたんですね。コンセプトもしっかりしているし、表と裏で腑<sup>はら</sup>に落ちる仕掛けも施されていて、とても感心しました。

白鳥：そうなんです。もとはといえば、家のパソコンで「著作権の花」をデザインしていたところ、息子(幼稚園児)が寄ってきて、関心を示したのです。本書中にはハサミなどのイラストも登場するのですが、それらについても、「いいねえ」と気に入ってくれました。

息子も私も、生き物や植物が好きなので、どんな生き物がこの花に集まってきそうか、親子でたくさん話をしました。それで、カバーデザインも息子と相談して決めようと……。

花が咲くには、まず種から芽が出る必要があります。水も太陽も必要です。そして、「著作権の花」は本書を通じた読者の方々の「学習」という栄養を得ることで、大きく花開く。

カバーデザインは、そのような様子をイメージしながら、特に色合いは、息子の意見を大幅に取り入れました。このデザインには、こうした想いが詰まっています。

——その親子関係は非常に羨ましいですね……。ちなみに「裏のデザインがどうなっているのか知りたい」と言う方は、ぜひ、本書を購入してご確認ください(笑)。

## 企業の知財部門に必要な著作権法の知識

——さて、本誌の読者層の中心は企業の知財部の方々です。企業において、絶対に知っておきたい著作権法の知識とはなんだとお考えですか？

白鳥：企業の知財部の皆さまにとって、著作権法はどのような存在なのでしょうか？ やはり業務の中心は特許で、発明の権利化に向けた対応などに奔走されていて、著作権はあまり意識することはない、といったところでしょうか？

——知的財産権の一つですから、知らない方はいないと思いますが、日頃の業務には直接関係がないという方も多いかもしれません。知ってはいるけど、それほど詳しいわけではないというか……。

白鳥：確かに、弁理士試験でも著作権法は不正競争防止法とひとくくりにされて、「追いやられている感」が否めないです（笑）。著作権は権利化を意識する必要がないので、それもやむを得ない面があるといえるのかもしれません……。

しかし、著作権は「知財」の重要な柱の一つです。著作権はそのような性格であるからこそ、各企業は日々、意識する、しないにかかわらず、著作物を生み出しています。ですので、各企業が知財戦略を考える場合には、自社の著作権の管理、そして、他社や他人の著作物の適正利用（コンプライアンス）にも配慮する必要があると思います。

また、著作権法を正しく理解することにより、特に、意匠や商標との関係性の理解も深まり、より総合的な知財戦略の展開につなげることができるのではないのでしょうか。

その意味で、知財部の方々は著作権法について、必ずしも特定のポイントだけを知っておけばよいということではなく、法律に基づいて仕組みを理解し、事業部や開発部といった知財部以外の方々にも、かみ砕いて説明できるようにしておくことが求められると思います。

とはいえ、じっくり著作権法を勉強する時間がないという方も多いでしょう。本書は、そうした方々の「虎の巻」として、強い味方になれるはずです。

## 読者へのメッセージ

——最後に、本誌読者へのメッセージをお願いします。

白鳥：実は、著作権法は知財部だけでなく、そもそも私たち一人ひとりの日常生活にも深く関わるため、全ての人が正しく理解しておくべき法律です。そのため、本書は、著作権法の理解の裾野を広げたい、という狙いから執筆しました。

「一家に一台」ならぬ、「一家に一冊」。

ぜひ、本書をお手元に置いて、快適な著作権の旅をお楽しみください！

——飛行機の機内アナウンスみたいになってますよ（笑）。



## クスッと笑えて腑に落ちる 著作権法ガイドンス

白鳥 綱重 著 A5判 368頁 2970円（消費税込み）

- |        |                    |      |                        |
|--------|--------------------|------|------------------------|
| 第1章    | 「著作権法」って？          | 第12章 | 「使いたい」「使ってもらいたい」の促進策は？ |
| 第2～3章  | 「何が」保護される？         | 第13章 | どうなると「侵害」？侵害したらどうなる？   |
| 第4章    | 「誰が」保護される？         | 第14章 | 著作権の「お隣さん」？            |
| 第5～7章  | 「何を」主張できる？         | 第15章 | 「世界のルール」は？             |
| 第8～10章 | 「どんな利用」なら許諾が要らないの？ |      |                        |
| 第11章   | 「いつまで」保護される？       |      |                        |